

り組んでいきたいと考えている。

②水道事業の経営状況は改善傾向にある。しかし、水道事業にとつて厳しい経営が予測される中で、さらなる経営改善を行い、今後累積欠損金が解消された段階で、水道料金について改めて検討していきたいと考えている。

子ども医療費の無料化については、国で議論されている「社会保障と税の一体改革」の中で、今後検討が進められる見通しが示されている。こうしたことから、本市においては、現行どおり



り行っていきたいと思つて
いる。この子育て支援に対
する医療費の無料化につい
ては、国や県が本当に真剣
に対応することが極めて大
切であると思つており、要
望も強く行つていきたいと
考えて いる。

職員の労働環境について

議員 職員が体調不良を訴え、長期療養休暇というケースを見るが、現状はどう

なつて いるのか。

市長 2カ月以上の長期の療養をしている職員は、平

11名、平成23年度7名となつてゐる。内容は、長期的な療養を余儀なくされてゐる者、それに加え、最近はメンタルヘルス不調による

療養者が増加している傾向にある。

妹尾博之議員

新笠岡港周辺の利用計画について

議員 国道2号バイパスに道の駅もできて、新笠岡港と合わせて干拓地活性化の材料は出そろつたのではないかと思う。新笠岡港周辺の活用ビジョンをたずねる。

市長 国道2号バイパスにより、新笠岡港の物流施設や港町工業団地、道の駅との連結性が高められることや、干拓地内の産業基盤の充実との相乗効果により、本市の発展の拠点と位置づけて、産業機能の集積を図っていきたいと考えている。

いて、岡山県及び関係漁協と協議していく。補助金については、強く県に働きかけていきたいと考えていろいろな協力をしていきたいと考

えていた。

議員 笠岡港内の遊漁船やプレジャーボートのほとんどが不法係留である。市として、どう対応しているのか。解決策として、県営マリーナの新設を県に要望する考えはないか。

建設産業部長 遊漁船・プレジャーボートの係留施設の設置が必要であると思つている。市としても、県の行う不法係留対策にできるだけ協力していきたいと考

港の利用について



笠岡港

議員 旅客船について、全島一周する環状線のようないか。航路は考えられないか。

市長 生活航路とは別に、周遊観光ができないか、航路事業者に働きかけを行いたいと考えている。

議員 月に1度でも2度でもいいので、全島ヘフエリーが行くようにできないか。

政策部長 非常に難しい問題はあるとを考えている。本当に航路形態ができるかどうかということについては、航路事業者とも話をみてみたいと思っている。